

駅100周年で馬車鉄道を再現

昨年11月24日(土)から26日(月)の3日間、JR粟津駅～粟津温泉の間約4kmを22人乗りの2階建て大型馬車が運行した。この馬車の運行は、粟津駅開設100周年を記念した事業として、駅開設当初は粟津駅～粟津温泉間が馬車鉄道で結ばれていたことに因んで、粟津駅開設100周年記念事業実行委員会が福島県喜多方市から挽馬の馬車を招き実施したもの。実行委員会は、粟津駅前商工会が中心となり、小松商店会連盟・小松商工会議所・地域の町内会を始めとした団体・企業等により構成され、事業の実施にあたっては、粟津温泉商工協同組合と連携して行った。

馬車の運行に合わせ、JR粟津駅・粟津温泉の両馬車乗車駅では、それぞれ商店会がテント村を設置し、地元の特産品やあつあつの飲食物でお客さまを歓迎し、25日(日)は恒例となっている粟津駅前商工会の朝市で更に地域の皆様との交流を深めた。3日間とも天候に恵まれ、小松だけでなく



金沢市や白山市からも、また、粟津温泉への旅行客などでほぼ満席の約650人の乗客があった他、馬車乗車駅だけでなく沿道にも沢山の観客が集まり、多くの人たちが馬車を楽しんだ。「蹄の音を聞きながら、ゆっくりした時間を持てた。」「普段は車で通り過ぎていた所だが、馬車に乗って新しい発見があった。」など、乗客からは数々の感動・感激、感謝の言葉を頂いた。

この事業を通じて、当地域の自然の豊かさや地域において商店街が果たしている機能・役割が地域の財産であることも発信でき、地域の皆様にもご理解・認識を頂いたのではないかと考えています。

粟津駅前商工会



お知らせ 1 平成20年度 税制改正要望の成果

- 中小企業の事業承継税制の抜本拡充
非上場株式等に係る相続税の軽減措置について、一定の条件のもと現行の10%減額から80%納税猶予に大幅に拡充。事業承継円滑化法(仮称)の施行の日(平成20年10月予定)以降の相続に遡って適用。
- 中小企業の生産性向上・成長の底上げ
 - ①中小企業投資促進税制の延長、情報基盤強化税制の延長・拡充
 - ・IT・ソフトウェア等への投資に対する特別償却30%又は税額控除7%を選択適用。
 - ・情報基盤強化税制は2年間延長するとともに、取得価額の最低限度を300万円から70万円に大幅引き下げする。
 - ②少額減価償却投資の特別の延長(2年)・拡充
資本金1億円以下の中小企業者等が30万円未満の減価償却資産を取得した場合、全額損金算入(即時償却)を認める。
 - ③人材投資促進税制の拡充
中小企業については、適用事業年度(単年度)の労働費用に占める教育訓練費の割合が一定水準(0.15%)以上の場合は、当該教育訓練の総額の8～12%に相当する額を税額控除する。
 - ④創業5年以内の中小企業者に対する欠損金の繰戻還付措置の延長
2年延長する。
 - ⑤交際費の損金算入の特例の延長・拡充
定額控除限度額(400万円)までは、その90%相当額について損金算入が認められる。
 - ⑥減価償却資産の法定耐用年数や資産区分の見直し、法定耐用年数の短縮特例の制度の手続き簡素化。
現行390区分→見直し55区分(平成20年4月1日以後開始する事業年度から)
- ※その他の改正事項
農商工連携を促進する税制措置
連携活動事業の立ち上げ、拡大に向け必要となる設備投資を支援する税制措置を創設。具体的には7%の税額控除又は30%の特別償却を認める。

お知らせ 2 国から “ぜひ活用のご検討を”

平成19年度まで「少子高齢化等対応中小商業活性化事業」として、商店街振興組合等に支援しておりましたが、平成20年度より「中小商業活力向上補助金」に名称を変更し、その対象が大幅に拡充されることになりました。

1. 対象要件を拡充
これまで少子高齢化や安全安心・環境・リサイクルの課題に対応するものに限られていましたが、創業・ベンチャー、地域資源・農商工連携、生産性向上(集客力向上、IT化、物流効率化等)に寄与する幅広い取組が対象となりました。
2. 対象となる事業を追加
商店街のイメージアップのためアーケードを撤去する事業、ポイントカードや電子マネーの導入事業、新規イベント立ち上げ事業(毎年実施する予定のもの)や周年イベント事業等が追加されました。
3. 対象事業者を拡充
これまで対象となっていた商店街振興組合、商工会、商工会議所等に加え、ソフト事業と一部の設備整備事業については、一定の要件を満たす民間事業者も補助対象となりました。

主な拡充点

対象事業の例

補助対象者

ハード事業
アーケード、カラー舗装、インキュベータ施設、テナントミックス店舗、街路灯、商店街休憩所、児童遊戯施設等の整備 等
ソフト事業及び民間事業者も対象となる設備整備事業
空き店舗を使ったチャレンジショップ・保育施設・高齢者交流施設・アンテナショップ等の設備・運営、防犯カメラ設置、電子マネー・ポイントカードシステムの導入、AED(自動対外式除細動器)の整備、新規イベント立ち上げ事業、共通駐車券システム整備 等

商店街振興組合、商工会、商工会議所、事業協同組合、NPO法人、その他の民間事業者(個人事業者を除く。)等

TOPIC
1

山代温泉商店街のお宝 ここにあり 輪 和 輪 和 !!

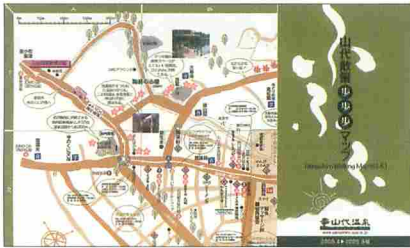
山代「楽歩館」開館できびしい財政運営が続くなか今年はどうしよう??その悩みも何のその、継続することが大切!!と会員一同の意気込み一声できまり。おたふく祭(スタンプラリー)、初笑いセール・抽選会、菖蒲湯まつり(協賛)などの恒例行事のほか「楽歩館」開館1周年を記念した夏祭り、更には教養事業として今年も講習会を実施することができました。案ずるよりうむがやすし。まずはやってみることが何より大事を実感しました。

平成19年8月11日(土)12日(日)の2日間、山代温泉の新しいスポット・地域コミュニティの拠点としてスタートした山代「楽歩館」が「まちの駅」に登録され、また開館1周年を迎えるにあたり記念事業として九谷焼陶芸市、山中塗り漆器市、九谷焼新進作家展など地元になんだイベントを歩行者天国のなか開催しました。商店街売り出し抽選会に、楽しいお買い物に、ピアガーデンにと近隣から大勢の親子づれ、旅館組合などと連携した結果浴衣姿の宿泊客のそぞろ歩き、界限は終日賑わいあふれんばかりの好評でした。

日曜日には、加賀市消防署と連携したまちなか防災訓練が行われ、「楽歩館」から非難誘導一初期消火一屋外消火栓の実習に地元の人たちが積極的に参加され、商店街が安全・安心まちづくりに取り組んでいる姿勢が多いにアピールされました。お金のほうは極力節約せざるをえませんでした。商店街が社会公共空間として地域の人たちの交流の場であり、さらには我々は、社会公共的課題を担っている重要な存在であることが認識されたのではないのでしょうか。有意義なイベントでした。



防災訓練



平成19年12月5日(水)山代温泉簡保の宿で財政困難、開催が危ぶまれていましたが、「継続は宝！」と今年も講習会を行うことができました。テーマは、かねてから要望あった「電子マネーの利用」です。

電子マネーによる外国客の誘客効果やポイント互換性による消費者エリア拡大が見込めることなどから商店街活性化の有効な方法の一つであること、さらには決済時にその人に合った情報を発信し、来街の動機づけをおこなう新たな試みも行われていることを学びました。

前の年には、国土開発センター遠藤部長による「交流と参加によるまちづくり」と題し、交流人口のまちなか回遊促進策について事例をまじえながら講演をおこないました。山代には、男生水や夢小路女生水など様々なまちなか回遊のスポットがありお菓子やお食事処、遊子五彩のミニ展示などのお休み処もありまちなかの活性化資源が豊富に揃っています(山代散歩歩歩マップ)。

我々の商店街の強み・活力はなんといっても、お金はないけれどみんなの協力で和・輪・団結はしっかりと根付いていること、これが我々の財産であり、お宝です。これからも商店街・商店の賑わい活性化にいっしょうけんめいがんばっていきます。

山代温泉通り商店街振興組合 理事長 佐内外喜男



講習会



そぞろ歩き

TOPIC
2

かなざわ・近江町市場の賑わいに更なる賑わい!

近江町市場は、全国的にも知られる観光スポットとしてはもちろんのこと、1580年この地で開かれていた朝市を起源とした「金沢市民の台所」として市民に広く親しまれており日々賑わい活気にあふれています。

いま近江町市場は、武蔵ヶ辻第四市街地再開発事業とともにアーケードの改修をおこない防犯設備も整った明るく開放的な市場として更なる推進を図ることになりました。

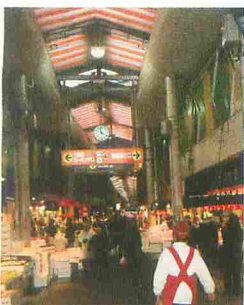
①再開発ビル建設工事に伴ない解体工事がおこなわれ、完成までの間、十間町の仮店舗(十間町みどり口、オレンジ口、上近江町口)ではさっそく商いをはじめ、店は変わっても「商売する人のこころ」は変わらないと、これまでと変わらない会話を楽しみにしながらの対面販売で頑張っています。

再開発ビルは、来春3月にオープンを予定しており、武蔵ヶ辻地区の国道157号線と国道159号線に面する場所に地下1階、地上5階の再開発ビルがお目見えします。1階には青果店、鮮魚店など50店舗あまりが商い、買い物客が行き交う「街路」と「アーケード」で市場を演出します。地下・2階には市場の素材を生かした持ち帰りのお店や手軽に立ち寄れる飲食店が、3階・4階には市民交流センターや生涯学習施設「近江町交流プラザ」(仮称)、「ちびっこ広場」(土日祝日も運営)や「金沢食育広場」など、官民一体の拠点として大勢の人が集い賑わうものと期待しています。

②アーケード架け替えが急ピッチにおこなわれています。入口看板も一新。鮮魚通りは青地に波、青果通りは緑地に稲穂、その他は茶色地に草木模様、でお客をお迎えします。明るく開放的で近代的な市場内で近江町鍋大会をはじめ春祭り、百万石市場まつり、子ども絵画コンクール、ほくほく収穫祭り、大行燈祭り、地物祭りのほか、よさこい踊り、おわら風の盆踊り、チンドン屋さんの練り歩きなど、一年中をとおり多彩なイベントをも取り入れ市場として盛り上がります。

③近江町市場周辺の武蔵の目抜き交差点周辺は、旧ダイエー金沢店の取り壊しが終了し、跡地にホテル・商業施設(地下1階は食品関連のストア、地上1階から4階は高級ブランド・飲食など、5階上は高級ホテルが予定されており、2010年のオープン予定)が、めいてつ・エムザ向かいのマンション・グランドパレス武蔵ヶ辻はオープン。「四つ葉のクローバー」の完成です。北國銀行武蔵ヶ辻支店の建物が、「企業市民」として地域貢献するため銀行カフェに生まれ変わり、一帯に花を添えることになりました。

④近江町市場が、武蔵ヶ辻の賑わい拠点として、にぎわいのうえに更なるにぎわいへと進化発展するよう頑張っていきたいと考えています。



近江町市場商店街振興組合 事務長 吉本 紘三

富山市中心市街地活性化は、「多様な主体」と「施策の連携」による総力戦であるとして、3つの施策を掲げる。

- ・まちなか居住の推進
- ・賑わい拠点の創出
- ・公共交通の利便性の向上

1 まちづくりの方向

- ①富山の個性とこだわりによる富山らしさ演出
- ②公共交通の充実による「歩く街」への転換
- ③街に来る新たな「たのしみ」の創出
- ④来街する人の立場に立ったサービスの展開
- ⑤不足機能の充実による街の魅力の創出

2 中心市街地活性化施策

- ①基盤整備とイベント・行事による賑わいづくり
 - ・インキュベーターショップ
 - ・フリークポケット（1号店）（若者対象）
 - まちなか西遊房（パレットスクエア）（2号店）（シニア対象）
 - ・交通の整備
 - コミュニティバス「まいどはや」2ルート
 - 無料レンタサイクル
 - ・空き店舗・コミュニティ施設整備
 - 街なかサロン「樹の子」（喫茶、チャレンジショップ、キッズコーナー）
 - ・さわやか活動
 - アーバンアテンダント、2時間無料駐車システム、とやメインキュベーターオフィス、街なか観光ウォーク、タウンモビリティ、ワゴンショップ「フチケ」、素人芸人の公開オーディション
 - ・イベント
 - 街角パフォーマンズ、街なか感謝デー
- ②情報の発信
 - ・シティウォーカー（まちなか観光情報・年1回）
 - ・HP「まちプラ」
- ③市民参加によるまちづくり
 - ・まちづくり公房、若者公房、アイデア提案箱

3 とやま中心市街地活性化協議会

- ①魅力ある都心ライフが楽しめるまちづくり
 - ・まちなか居住の推進事業
 - ・堤町1丁目地区有料建築物等整備事業
 - ・低未利用地活用推進調査事業
- ②富山市の顔にふさわしい魅力的で賑わいのある拠点の創出
 - ・「賑わい横町」（中心市街地に不足する飲食店整備による魅力・回遊）（19. 3）
 - ・総曲輪通り南地区第1種市街地再開発事業（19. 秋）
 - ・グランドプラザ整備事業（ // ）
 - ・駐車場無料デー
 - ・賑わい交流館「フォルツァ総曲輪」
- ③誰もが多様なライフスタイルを享受できる公共交通の利便性向上
 - ・まいどはやバスの運行見直し
 - ・路面電車環状線化事業
 - JR富山港線の路面電車化（串とお団子政策（市財源の限りあることから、まず中心市街地の活性化を図り、次いで周辺部への波及効果を期待する策）
 - 市内電車の環状線化計画

4 富山市中心市街地活性化協議会組織

協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の基本計画作成の際の意見陳述 ・民間事業者が事業企画作成の際の協議 富山商工会議所・(株)まちづくりとやま（共同設置者）、富山市、(株)大和・商店街連盟（商業者）、富山地方鉄道(株)（交通事業者）、(株)北陸銀行・北陸電力(株)（富山商工会議所女性会（地域経済）、(株)シー・エービー（地域メディア）の10団体で構成
幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会での協議事項調整 ・専門部会からの提案事項調整 協議会構成員14名、他委員12名（学識経験者など）の合計26名の委員
専門部会	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事業実現の検討 ・新規事業の提案 まちなか居住推進・賑わい拠点創出・公共交通利便性向上の3部会

商店街活性化セミナー（平成19年10月24日）

まちなかの賑わい・再生の秘策 ～長野まちづくりの取り組みについて～

服部年明氏（有限会社リテイルウォーク代表取締役
株式会社まちづくり長野参与）

①市街地活性化の目的・意義

- ・都市機能の拡散抑制
- 市民生活を支える各種機能は、人口減少の到来により不用なものとなる。下水道や水道は使用しなければさびるため、使用しないものまで維持コストが膨大なものとなる。
- ・インフラ整備等に要する歳入の縮減
- 必要な施設は、中活で、既存のもので活かせるものは修繕で。

- ・都市は経営である。将来のコストをいかに減らすかの視点にたち、15年後を見据えた中心市街地の活性化のあり方を考えること。
- ・商店街活性化だけでは、人は集まらない。サービス・余暇>買う、時代に切り替え必要。お客をつくることから始め、それから商業活性化を考えよう。

②共通認識と合意形成

- ・中心市街地活性化は中心市街地関係者や行政、経済界、市民共通の課題である。まちの魅力・価値の低下→資産価値の低下→固定資産税減少による財政窮乏
- ・中心市街地の関係者は個人の利害を超え、共通価値（まちの価値）向上に協働・協力しなければならない。

③TMOの役割

- ・異なる利害を持つ人々の利害・意見を調整し、中心市街地活性化という方向にまとめていく。
- ・活性化基本計画を立て、活性化の要・核となる事業にまず行政、まちづくり会社が協働し活性化事業の口火を切る。
- ・空洞化の深刻な地域に賑わい再創生の核施設（機能）を開発する。
- ・実施期間、スケジュールを明確にし、民間事業を誘導する。「行政は種を蒔き、収穫（税）する。種を蒔かずして市政に突りなし」
- ・活性化の要となる事業で、行政、民間が取り組み困難な事業はまちづくり会社が担う。
- ・動かない計画、活性化に結びつかない計画では、せっきのまちづくりへのロマンが消え伏せ、まちづくり機関への信頼がうすれ、民間活力も発揮できず、絵に描いた餅に終わる。
- ・小さな活性化事業でも良い。成功事例を早期に打ち出す。

④異質のマネジメント

- ・活性化は改善でなく改革である。
- 空洞化の原因は、変化を好まず、同質・現状維持の中で考え対応してきた結果である。中心市街地に存在する文化・歴史・資産・機能を活かしながら、変化する生活者ニーズをとらえ、異質を迎え入れ新たな魅力を創ることが必要である。
- ・投資対効果を考える。
- まちの環境整備（舞台づくり・きれいなまち）で商店街の賑わいは取り戻せない。まず、役者がやる気にならなければ、かえって、一層マイナスに拍車がかかりかねない。

（例）道路拡幅→その分税収減・活性化施設地減→どれだけ減となるのか。それだけ広い道路が必要か。将来の負担・人口減少による車の減を考えること（既成概念を捨てる）。

⑤戦略的中心市街地活性化

- ・商業視点の中心市街地活性化から生活者視点のまちづくりへ
- 「住・職・福・学・商・憩・観」の各種機能と「歴史・文化」性を重ね合わせまちの魅力を高める。
- ・都市全体の理念と将来像を明確にして再生戦略「都市戦略」を構築する。（グランドデザインとエリア別コンセプト）
- ・郊外にない強み
- 中心市街地区域内には、観光拠点、交通結節拠点、広域対象型商業集積、業務、行政官庁等公共施設、市民生活支援機能集積、住宅、集合住宅など、活性化に向

けての基盤となる種々の機能、ポテンシャルがある。

- ・強みを活かして活性化を図る。
- エリアごとにコンセプトを立て、多様な事業を推進し各エリアの魅力を高め、同時に有機的に関連しながら中心市街地全体の魅力へと結び付けていく。
- ・ライフスタイルセンター型複合商業集積
- 「モノ」から「サービス」の時代「住・福・商・憩・観」を取り入れた賑わいの創出

⑥街の魅力を高めて賑わいあるまちへ

行政・民間・TMOの協働	街なか居住の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・住む人を増やす ・街に目的をもって来る人を増やす ・街を歩き、滞留する人を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある共同住宅 ・住みよい環境 ・コミュニティの再生 ・公共・公益サービスの充実 ・生活支援機能の充実
賑わいの創出	街の魅力向上（イメージカ）
<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業所誘致 ・核商業施設の整備 ・学習施設、機能の整備 ・イベント開発（道路・施設の開放） 	<ul style="list-style-type: none"> ・便利さ（整備された都市基盤） ・文化・伝統の継承 ・情報発信 ・交通網の再整備 ・街並み景観形成 ・エリアごとの個性化 ・歴史的観光資源と商業

⑦まちづくり会社設立

- ・行政・民間が取り組み困難な活性化事業に取り組む。
- ・活性化への口火を切る事業に取り組む。
- ・行政の資本参加は第三セクターとなるための条件（出資比率3%以上）を満たす範囲で抑えることが理想。
- ・空洞化した中心市街地で活性化事業に取り組むには事業採算性が厳しい事業計画、採算計画を慎重に立案し事業を矢張り早く実施する。
- ・経営は3年目に黒字化を目指す。
- ・資本金は3年間の累積赤字を想定し検討する。

⑧その他

- ・ばていお大門をなぜつくったか。
- 線のまちはつかれる。「よどみ」をつくりながらまち歩きを楽しんでもらう。こういうところには人は集まる。
- いろんな場面に出くわすつかれない。
- 「蔵楽庭」「和とモダンのミックス」
- 核店舗「グラナリー（ACTUS）インテリアショップ」（ヨーロッパ家具）
- 飲食 気軽なお食事から高級飲食
- 物販 健康食志向食品、パン工房、郷土食品、和洋クラフト・ギャラリなど
- 衰退傾向にある大門商店街の再生「小さな旅気分を味わえるまち」
- 大門整備事業→各店舗6～11%売上増加→これで活性化成功する！→近隣商店のがんばりの始まり（日曜日営業・営業時間延長など）。
- これからのまちづくりは、将来を見据えたまちづくりを。
- 人口減少、マーケットは毎年減少、観光客激減。工場跡地を活用したまちづくりを考える。（工業地区に商業施設誘致→資産価値アップ→税収増加→・・・）
- ・中心商店街の大規模店との連携・協働を積極的に。
- 上越、北九州、諫早で大規模店撤退と同時に近隣商店街がダメになった事例があり、中心商店街の大規模店と一体的な方策を考える。

武蔵ヶ辻（金沢）に 「四つ葉」揃い芽を育てりっぱな花を咲かせ続けよう！



皆様のお蔭で武蔵ヶ辻の四つ角も数十年ぶりに何とか揃い芽が出てまいりました。この大切な芽を育て世界に一つだけのりっぱな花を咲かせ続けることが私どもの大切な仕事だと思っております。

最初はきれいな町には多くのお客様が来ていただけますがなにもしなければ、いつまでも満足してお買い物をしてはもらえません。花を咲かせるまでの3年間いろいろなことを考えなければいけない時期を任せればはっきり言って不安なこともいっぱいあります。

しかし組合員一丸となって素晴らしい花の夢を見ながら頑張っていきたいと思っております。22年完成予定の旧ダイエー跡に出来るホテル及び商業スペースに関しても武蔵に相応しいテナント、またどのようなお店をお客様が求めていらっしゃるのかをよく話し合い、後悔のないようにしなければならぬと思っております。ダイエーが無くなった時にはよく車を運転できないお年寄りのお客様などから電気の球ひとつも買わないところもないと言ったようなお話を聞きました。私たち車があることが当たり前のものには分からないことでした。

これから武蔵周辺にはいくつかのマンションができる予定です。これから武蔵に住まれる方にそのような不自由をかけることは商店街のお世話をするものにとってはとても恥ずかしい話です。武蔵に住んでいる人たちにも本当にここに住んでよかった、すべてのものがここで揃うと言って頂ける町づくりも大切な仕事だと思っております。「武蔵がんばるとるな」と言って頂けるように今後も頑張っていきたいと思っておりますので今後とも宜しくお願いいたします。

武蔵商店街振興組合 理事長 中島 祥博

平成19年度 全国商店街女性部セミナーに参加して

11月8日（木）に平成19年度全国商店街女性部セミナーに参加してきました。「中小企業診断士」の木村裕美氏の「地域のぶらっとほーむ商店街」～おかみさんが育む地域との絆～の講演がありました。

そもそも地域社会にとって商店街はどんな場所だったのでしょうか？

二つの機能をもつ商店街

相互扶助システム（町会・消防団・PTAや各種地元活動団体の一員、地縁型コミュニティに帰属、地域貢献）

専門処理システム（事業者＝さまざまな専門分野の専門家として新住民や地域外からの来街者とも交流、営利活動）

〈21世紀商店街を形作る5つのキーワード〉

5つの要因を実現させる要としてのパートナーシップ、住民自らが地域経営を協働推進するぶらっとほーむ（受皿）です。

①地域コミュニティのサポーター ②地域マネジメントの担い手 ③ネットワーク社会の形成の場 ④文化の伝承・創造の苗床 ⑤起街家を誕生させる場
事前にセミナーの参加者のアンケートをとりその事例が紹介されました。

〈戦略に育てできそうな地域活動の事例〉

ー富山市ー

中央通りさんぽ～ろママSUN会
地産地消の市

ー青森県八戸市ー

ナイトオリエンテーリング
屋台が中心の商店街でお客様に事前に¥2000の金券を購入してもらって各屋台で使用してもらう。昨年の冬は、600名の参加があった。八戸せんべい汁の発案者の方でした。

ー愛媛県宇和島市ー

女性会の4名で週2回の配食サービスを提供している。高齢者が多いので評判が良く、頼りにされている。

ーハッピーロード大山ー

月1回高齢者の施設でのコーヒーサービスとフラダンスの慰問をしており、7年目に入る。高齢者のお買い物のサポートを2人1組で支援している。

数例の活動の報告がありました。

その地域のオリジナルの活動がありとても興味深く感じました。こんな時代だから人のぬくもりのあるサービスが必要なのです。

最後に同席の横須賀市の方から、商店街活動で外出するときに、店主（ほとんどの場合御主人）の顔色をみて外出するのが不便。補助金がある時はなんとかかなるけど、その後赤字になるのではの不安など現実には厳しいことを話しました。

魅力のある『オンリーワン』の個店・商店街・街づくりを目指してみようと思いました。

片町商店街振興組合 理事 一ノ谷典子

平成19年度 第2回全国商店街青年部指導者研修会に参加して

今回の指導者研修会は3本の講演が「まちづくり」「店づくり」「そして商店街」とそれぞれの視点から現在を視た大変系統だった有意義なものであった。

最初に前回開催された地、青森などで取り組まれている「コンパクトシティ構想」の必要性について宮崎大学大学院横森教授からのお話であった。

インフラの面から見た市街地の推移や今後の見通しなど、大変考えさせられる内容だった。今すぐにはどうできることではない、でも今始めなくては手遅れになる。それも取り返しのつかないような。我々の手が届くところではないのかもしれないが、それを知った上で何かを始めようと思うことが大切なのであろう。

その次には、研修会には珍しく女性の講師、木暮衣里氏の「店づくりからまちづくりへ」という、もう少し身近な目線での講演である。

わざわざ「女性の」と書いたのは、やはりその目の付け所や考え方に参考になるところが多いからである。女性の目からのお話。やはり数字とかデータにとらわれすぎている感のある男性の話とはまったく違う印象をうける。「どうしてそんなに自信がないの?」「女性はいつも何かしてほしいのに」と単純かつ明快な答え。とても励まされる内容でした。

そして次の日、最後にお話されたのは初代の青年部長、現在の全国商店街振興組合連合会 理事長 桑島俊彦氏。

独特の勢いのある語り口で、現在の日本と中小企業の現状を語っていただいた。ハード面だけでなく、商店街の環境についてが主な内容だったが、知らなかったことがおおく大変有意義であった税制面、安全面、政治との付き合いなど、我々の存在価値についても引き込まれるように聞いていた。

今回、3人の講師の方々からお話いただいたのだが、我々の活動が、単に自分のお店や一商店街にとどまらず、日本全体にとって意義があり、また必要なことだと改めて気づかされる内容であった。

正直、息切れすることもある商店街活動ではあるが、気を引き締めなおして、取り組んでいきたい。と同時に、全国に意を同じくしている仲間が大勢いることも背中を後押ししてくれる力になるはずである。

武蔵商店街振興組合 副理事長 太田 有彦

